

季節の不調

この季節になると、目やに、涙、異物感、眼痛があり、強いかゆみを伴い、時には鼻炎も起こす子どもがいます。これは、気温が上昇するにつれて現れる結膜炎の炎症で、春季カタルまたは春季結膜炎ともいわれるアレルギー性の結膜炎です。これから夏にかけてよく流行するのは、

結膜炎

ウイルス性結膜炎や、はやり目、プール熱など、感染性の結膜炎です。結膜炎は、眼科の代表的な疾患で「ごくありふれた軽い病気」と片付けられることが多い病気です。しかし、結膜炎に合併症が起きると視力に影響が残るケースもあります。

●構造的に結膜炎は起こりやすい

結膜は、まぶたの裏側と眼球の表面から黒目の周囲まで覆っている粘膜の部分です。結膜は涙で常に潤い、細菌などの異物の侵入を防いでいます。しかし、外部にさらされているので刺激を受けやすく、袋のような構造になっているので異物がたまりやすい状態にあります。しかも、水分・栄養・温度が細菌やウイルスの繁殖に最適な環境です。つまり、感染やアレルギーなどの炎症が起きやすい構造になっているのです。

●結膜炎を起こす原因

結膜炎は、多くの細菌にさらされたり、睡眠不足や過労などで抵抗力が落ちたりしているときに、結膜に起こる炎症です。原因としては、細菌やウイルスなどの病原体による感染、アレルギー、外傷などがあります。症状は結膜炎を起こす原因によって異なりますが、共通する症状は、白目の充血、目やになどです。アレルギーや外傷による結膜炎と違って、感染による結膜炎は人にうつります。

●しっかり治して、人にうつさないようにしましょう

結膜炎は眼球の表面にある結膜の病気ですから、ひどくなっても眼球内部に変化は起こりませんし、失明することはほとんどありません。しかし、合併症(混合感染、角膜混濁、ドライアイ)を起こすと視力に影響が出る場合もありますので、結膜炎を甘く考えずに早めに治療を受けましょう。感染性の結膜炎の場合、うつらないためにも、うつさないためにも、注意が必要です。

[感染を防ぐために]

- ・目をこすったり、触ったりしない
- ・手をよく洗う
- ・自分専用のタオルを使用する
- ・発症している場合は、お風呂は最後に入り、浴槽のお湯は捨てる
- ・患者のものは、洗濯は別にして、日光によく干す
- ・目薬は、患眼だけにさす

